

ひろば

Vol.150

HIROBA

発行日：2025.6.2 発行人：安達 洋次郎

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 TEL & FAX 03-5371-2732（事務局）

<http://www.kougei-dousoukai.jp> kougei_dousoukai@kougei-dousoukai.jp（受信専用）



卒展×同窓のつどい

卒業制作展

卒業のことは

ホームカミングデー

芸術学部開設30周年記念式典

同窓会ホームページリニューアル

フォックス・タルボット賞

学位授与式

卒業祝賀会

ひろばのページ



東京工芸大学同窓会主催

昨年復活した「卒展×同窓のつどい」が、今年も卒業制作展開催期間中に盛大に行われました。このイベントは、同窓会として後輩の皆さんを応援し、また、旧交を温めるなど交流の機会を設けることを目的としています。会場は同窓生のみならず、教職員の皆様、現役の学生の皆様にも多数ご参加頂き、大盛況のうちに会を終えることができました。また来年も皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

- 開催日時 2025年2月15日(土)15:00～17:30
 - 場 所 中野キャンパス2号館地下1階プレイス(学食)
 - 参加人数 254名(卒業生・教職員・一般：164名／在学生：90名)
- (上田耕一郎 75期)

卒展を観ながら
同窓会をしよう!!
東京工芸大学同窓会主催
ご案内

卒展×同窓の つどい2025

【東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2025】は、中野キャンパスで開催されます。同窓会としては後輩達を激励すると共に、旧交を温める空間を提供しようと「卒展×同窓のつどい」を企画しました。

同窓生のみならず、卒展を観に来られた際には、同窓会の会場にも是非お立ち寄り下さい。軽食と飲み物を用意してお待ちしております。

- 卒業制作展に来場された方はどなたでも入場できます。
- 同窓生と恩師、後輩達が集う“おしゃべりの場”としてお気軽にご来場下さい。
- 同窓生の方には記念品を差し上げます。

<開催概要>

日程 2025年2月15日(土)

会場 東京工芸大学中野キャンパス2号館地下1階「プレイス」(学食)

時間 15:00～17:30

入場料 無料

※事前申込不要。時間内出入り自由

2月16日は
東京中野に
集まりましょう!!

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2025

日程 2025年(令和7年)
2月14日(金)～16日(日)

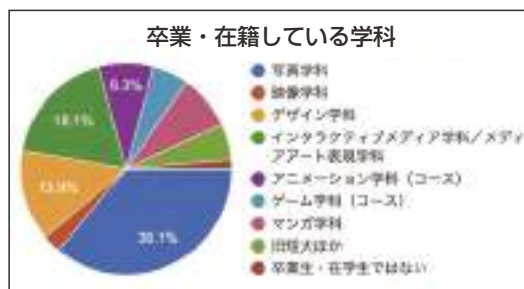
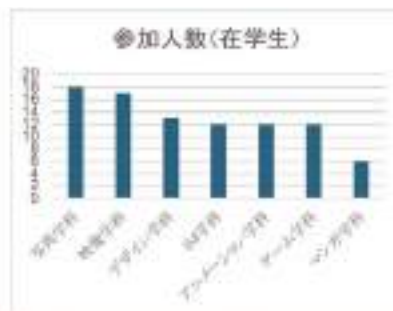
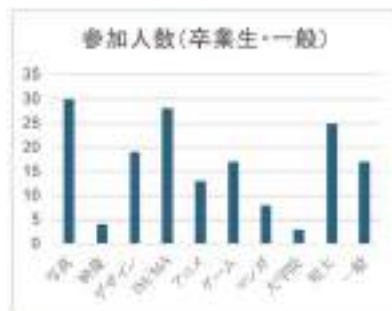
会場 東京工芸大学中野キャンパス

時間
14日(金) 13:00～18:00
15日(土) 10:00～18:00
16日(日) 10:00～15:00

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2025 メインビジュアル ▲「創造する」松本こうみ(デザイン学科4年)

Access map

「卒展×同窓 のつどい2025」 アンケート結果



その他 コメント(原文ママ)

- ・サラダが欲しい
- ・活気があって楽しかったです
- ・僕、ここの卒業生じゃない…
- ・楽しかったです
- ・懐かしい卒業生たちと楽しい時間が過ぎて大変良かったです
- ・アルコールがあるとより良い!!
- ・ポテトがとても美味しかったです
- ・まあまあ知らない人々が多いのではない!?
- ・はじまりが不明、場所が分かりづらい
- ・料理とても美味しかったです
- ・とっても楽しかったです!ありがとうございました!
- ・軽食にご飯系のものが少しあるといいなと思いました(小さめのおにぎりとか)
- ・軽食美味しかったです!ありがとうございました

卒展×同窓のつどい2025



写真提供：都筑写真事務所



卒展委員長の言葉

去る2025年2月14日(金)から16日(日)の三日間に渡り、「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展 2025」が中野キャンパスで開催され、芸術学部 の7学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ)及び大学院芸術学研究科が揃って展示・上映を行いました。

開催期間は三日間共に晴天に恵まれ、卒業生やご家族の皆様を始めとする多くのお客様で昨年以上の賑わいとなりました。大過なく無事にイベントを終えることが出来ましたこと、学生や教職員の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

展覧会と言えば、展示された作品を黙々と鑑賞する印象がございましたが、各展示・上映ブースでは、卒業生の先輩や学外からの友人達に向けて自身の作品を紹介し、笑顔でお客さまとやり取りする学生の皆さんの姿が多数見受けられました。

展示作品や体験作品ではコンセプトを伝え、作品や鑑賞体験そのものを楽しんで頂き意見を交わしあったり、上映視聴後にお客様同士が感想を

交わし合ったりと、出展作品を通じてコミュニケーションが行われる様子は、まさに多様なメディア芸術が一堂に集まる展覧会ならではの光景かと思います。

芸術学部は2024年度で設置30周年を迎えましたが、本学卒業・修了制作展が、このような現在の総合的メディア芸術の展覧会へと進化し続ける事が出来たのは、東京工芸大学を支えてくださる同窓会の皆様の多大なるご支援の賜物と心より深く感謝申し上げます。

さて、今年度の卒業制作展は2026年2月13日(金)から2月15日(日)まで開催を予定しております。同窓会の皆様におかれましてはこれまでと同様、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

卒業制作展委員会委員長
准教授 水谷 元(デザイン学科)



吉野学長



大島芸術学部長



永江大学院芸術学研究科長



オープニングセレモニーに集まった学生・教職員のみなさん



東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2025メインビジュアル「創造する」
松本 江未(デザイン学科4年)

「卒展開催を振り返って」



卒業制作展の写真提供：都筑写真事務所



卒業のことば

写真学科 藤本 祐菜

高校生までの私にとって、写真制作は視界共有を目的としたものだったように思います。写真には目の前に広がる世界に自分の視座を乗せて思いを伝えることができる、この喜びは四年間写真と向き合った今でも変わりません。一方で大学に入学後はたくさんの作品を知り、写真制作は世界と自分自身を反復し見つめる作業へと変化しました。この四年間、私は本当に写真を通して世界を見ていました。本を読んでも音楽を聞いても映画を見ても、いつだって写真というメディアとの関連性や写真的目を通して向き合ってきました。一人で考え込むだけでなく、新鮮な視点で常に考えをブラッシュアップできたのは、写真観を

熱く語り合える友人のおかげです。彼女の写真観を通して知る人生観には私の視野を広げる力を持っており、一人では辿り着けない場所へ連れて行ってくれました。私はその時間がたまらなく楽しく、この時間が卒業後毎日のように繰り返せなくなることは悲しいですがこの四年で蓄えた力で社会に貢献できるような人になりたいと思います。こんなにも写真のみに集中できる環境を整えてくれた両親と教授の皆さん、ありがとうございました。





卒業のことば

映像学科 小野 明日香

こんにちは。映像学科の小野明日香です。丸4年間この大学で過ごしてきましたがもう卒業か…と、とてもあっという間でした。俗に言う1.2年で頑張れば4年は暇だからという言葉に信じてたくさん授業を取りました。その結果4年は卒業制作のみに集中することができましたが、就活！バイト！撮影！と普通に忙しかったです。4年は暇は嘘だと思います。もう二度とやりたくありません。さて、私たちの代は最初リモート授業から始まり、だんだんと対面授業へと移行していくような授業スタイルで、サークルにも入らなかった私は当時友達が中々できないと焦っていました。でも今はゼミの活動を通じて顔馴染みも友達も増えました。大丈夫！何とかなったよ！と過去に戻れるな

ら自分に言ってあげたいなとこの文章を書きながら思っています。正直私は4年間を通じて制作Pしかこなしていなかったため、カメラや機材など特別技術的な知識や技能が身についたと胸を張っては言えません。それでもどんな手を使っても作品を作り上げるという気合は手に入れられたかなあと思っています。振り返るとたくさんの人に助けてもらった大学生活でした。本当にありがとうございます。





卒業のことば

新しいことに挑戦する勇気や楽しさを体験させてくれた大学での4年間はあっという間で、とても濃く、貴重な時間でした。相談にたくさん乗ってくれたり、弱音を吐いてしまっても最後まで寄り添ってくれた先生や、夜遅くまで学校に残り課題やグループ展、就活、様々な作業と一緒にしてきた友達がわたしの周りにはたくさんいました。心優しく、頑張ろうと思わせてくれる素敵な方々がたくさんいること、いろいろな人に助けられているなど強く感じる、そんな環境に居させてもらえたことがわたしの人生の中での大きな支えになっていました。絶対にいいところを見つけてくれ、さらに作品が良くなるようブラッシュアップを最後まで一緒に考えてくれる先生方の指導と優しさ

デザイン学科 グラフィックデザイン領域 椎橋 仁子

があったからこそ、わたしはこの大学で学ぶことの楽しさと貴重さを強く感じていました。一緒に頑張れる友達ができたおかげでわたしは4年間の集大成である卒業制作をやり切ることができました。ここでの学びと出会いはわたしにとって一生忘れることのないとても大切な思い出になると思います。素敵な居場所を与えてくれて本当にありがとうございました。





卒業のことは

何故描くのか、何故このモチーフなのか、何故自分が作らなくてはいけないのか、そんな事を自問自答した四年間でした。大学に入学し、初めて芸術というものに向きあった時、そこには何もない世界が広がっているようでした。それまでの人生は、社会という枠組みの中で、ただ与えられた道を示された方向に進むだけの退屈なものでした。また、そんな枠組みの中で本当の私を見てくれる人はいませんでした。今思い返せば、容姿、学力、運動能力など、様々な要素が私を隠していました。しかし、芸術の世界は、道も、方角も、答えもない、そんな世界でした。そして、とても空気が澄んでいました。入学した時に感じた

デザイン学科 イラストレーション領域 只野 雅人

自由は、今でも忘れる事はありません。自分の意志で初めて社会と対立したような気がしました。私の作品を通して、私自身を多くの人に見つめられた時、初めて救われたような気がしました。初めて自分の意思で生きようと思えました。この鬱屈とした現代において、こんなにも面白い人生を歩んで良いものかと感じる時もあります。私をここまで導いてくれた、多くの方々と芸術に感謝しています。





卒業のことば

私が大学で過ごした日々の半分近くは新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残っている時期で、授業を始めとした大学生活にも大きな変調が起こっていた中での生活でした。そのような環境にあっても丁寧に熱意を持って教えてくださった先生方、先輩方、サポートしてくださった大学関係者の方々には感謝の念に堪えません。それでも、私にとっての大学生活の多くは心の断絶や孤独と隣合わせであったように思います。4年間すべてを制約なく過ごすことができたなら、大切な友人達ともっと早く出会っていたらという気持ちは拭えません。私だけでなく、おそらく同じ時を過ごした学生の多くがどこかにそういった気持ちを抱えているのではないかと想像し

デザイン学科 映像情報デザイン領域 望月 壮

ます。しかし、私達が大学生活で授かったのは理不尽で困難な障壁に対して、自分らしさを失わずに戦うための技術であり、それを磨く術でした。それらは、私達の過去と未来を繋ぐよすがであると強く願っています。いつか私達が各々の培った力を発揮し、次の舞台でまた巡り会えた時にこそ、この大学生活を意義深く、誇らしく思える瞬間だと信じ、作り続けることでこの大学生活を未来に繋ぎたいと思います。





卒業のことば

デザイン学科 空間プロダクトデザイン領域 ZHENG FENGLI(テイ ホウレキ)

振りかえてみると、入学した当時の景色はまるで昨日のようでした。

この昨日如き四年間には、一緒に支え合った人、一緒に笑った人、一緒に旅を出た人、そして就職を支えてくれた先輩など、様々な人との出会いがあり、まるで旅でした。

この出会いが溢れる旅には、答えがない中を人々が各々自分の道を歩んでいました。出会いがあれば、別れは必ずやってくる、まるで人生でした。

この答えなき人生で私はデザイナーを目指し、日本に留学しました。山あり谷あり、遂に卒業の時がやってきました。

自分はデザイナーに向いていない疑いがあったが、やは

り人々の生活をよりよくするため、やりがいのある分野だと確信し諦めずにこの道を歩み続けました。

最後に、これを読んだ後輩たちに、必ず迷う時があるが、人生は答えがないから、迷ったまま進もう、道は自分の足元にあると伝えたいです。

更に、これから離ればなれになるみんなに、この四年間本当にありがとう！皆さんが願う素敵な未来は残酷なことにならず、心からの願い素敵な未来に走っていきましょう～



インタラクティブ メディア学科



卒業のことば

.....

インタラクティブメディア学科 丸茂 虎太郎

東京工芸大学を卒業するにあたり、これまでの学びと経験を振り返ると、感謝の念とともに未来への期待が膨らみます。在学中、私たちは技術と創造の融合を学び、仲間と切磋琢磨しながら多くの作品を生み出してきました。時には困難に直面し、思うように進まないこともありましたが、それらを乗り越えた経験が今の私たちを形作っています。特に、教授や先輩方からの指導、友人たちとの議論を通じて得た知識や視点は、これからの人生の大きな糧となるでしょう。これから社会に出る私たちは、それぞれの分野で新たな挑戦に向かいます。東京工芸大学で

培った技術や感性を活かし、創造の喜びを忘れず、社会に貢献していくことが私たちの使命です。そして、ここで築いた縁を大切にしながら、共に成長し続けたいと思います。最後に、学生生活を支えてくださった先生方、家族、友人、そして大学のすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。これからも東京工芸大学の卒業生として誇りを持ち、それぞれの道を切り開いていきます。 Generated by ChatGPT





卒業のことば

アニメーション学科 矢作 明熙

この4年間は、長いようであっという間でした。アニメ制作含め、デッサンやデザインなどほとんど分からず、大半は大学で学びました。周りは絵が上手い人が多くて、何度も何度も心が折れて、大学に行く足取りが重たくなる日もありました。正直、大学を辞めようかと考えたこともあります。辛いこともありましたが、それと同じくらいの達成感と自身の成長に対する喜びも沢山ありました。家族や友人、先生方に支えられたお陰で、諦めずにここまでやってこれました。また、授業や課題を通して、自分でも気づけなかった能力や才能を知ることができました。

レベルの高い人に比べたらまだまだ反省点はたくさんありますが、4年前に比べれば、技術面でも精神的にも成長できたし、ぐっと伸びたなと思います。今回の卒業制作で作ったアニメーションも、4年前の私ではとても作れなかったと思います。本当にこの4年間、必死に頑張ってきた自分を誇りに思います。でも本番はこれからなので、改めて気を引き締めてまた頑張ります。



ゲーム学科



卒業のことは

大学でゲームを学ぶという選択肢。きっかけは、人それぞれだったのだと思います。異なるビジョンを抱いて、集まった私たち。もちろん、すれ違うことも多々ありました。この4年間は、誰にとっても前途多難な旅だったと思っています。多くの挫折を重ねて。多くの挑戦を重ねて。ようやく、ここまで来ました。その過程で、結果で。私たちは、共通の目標を持つことが出来たのだと思っています。ゲームを作りたい、そして誰かを楽しませたい。文化の壁を超えて。言語の壁を超えて。気持ちを一つにして取り組んできました。そして、4年間の学校生活で得られたものは、なにも知識だけではありません。一生モノのかけが

えのない仲間。そして、二度と得られない特別な経験。これらこそが、私たちが大学で得られた本当に大切なモノだと思っています。卒業し、それぞれの道を征くことになる私たちですが、『ゲームが好き』という志だけは、どれだけ遠く離れていても重なっていると信じています。そして、いつの日か、私たちが作ったゲームが、誰かを笑顔にできることを信じて。さようなら、ではなく、またねという言葉で締めたいと思います。それでは、また。

ゲーム学科 麻生 侑樹





卒業のことば

マンガ学科 遠藤 駿作

4年間、色々ありましたね。いろんな人間いろんな作品が工芸大には存在してて、入学当初は自分のことを天才だと思ってたんですけど、そうでもないかもしれないと思うようになりました。なにせマンガを描くなんてのは大学に入って初めてだったものですから。ただでさえうまいことかない作品に、編集者から大変ありがたい超辛口コメントを頂くこともありましたね。めんどくせーって時もありましたけど自分の成長は感じていたし、先生方に相談に乗ってもらったことや、頂いたアドバイスには何度も助けられたので、なんだかんだで描くの続けて来れました。担当がついてからは課題と新人賞のネームの両方に追われたりしました。マンガ慣れしてない2年の頃にそんな

状況だったので本当に大変でしたね。先生、友達、編集者、この4年でいろんな人に作品への意見をもらって、自分が何を描くのが向いてて何を描いたらいいのか、目指すべきところ、世界観。いろんなものが可視化されたような感じがします。学びも楽しみもたくさんさんの生活でした。もうあと10年は大学生でいたいですね。色々語りましたが何よりも楽しかったのはゼミで開いたバーベキューです。あれはもっかいやりたい。





第15回ホームカミングデー

2024年11月30日(土)、中野キャンパス1号館で大学主催の「第15回ホームカミングデー」が開催されました。東京写真専門学校、東京写真短期大学、工学部、短期大学部、女子短期大学部、芸術学部各卒業生が対象で、54名の方の参加がありました。1B01大講義室での式典では、吉野弘章学長より歓迎のご挨拶があり、卒業50年目・25年目の卒業生24名に対し恒例の学友記が贈呈されました。

式典のあと学生食堂に移動し懇親会へ。本同窓

会の安達洋次郎会長の挨拶に続いて、女子短期大学部(華輪会)会長代理の刑部まゆみ様の乾杯のご発声で軽食を食べながら歓談のひとときを過ごしました。女子短期大学部コーラス部OGを中心に結成された「劇団Step ONE」メンバーによる歌も披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

最後に工学部同窓会の舟木学会長の締めめの言葉、そして恒例の立川同窓会事務局長の三本締めで宴はおひらきとなりました。(上田耕一郎 75期)

式典



懇親会



写真提供：都筑写真事務所



芸術学部開設30周年記念式典

東京工芸大学芸術学部は1994年に開設され、2024年度に30周年を迎えました。30周年記念企画として、「卒業生インタビュー動画(アルムナイインタビューズ：今を生き抜く7つのヒント)」の制作・公開と、「カラフルフォトリンピック(障がいのあるキッズモデルの魅力や意義を社会に伝える、

高校生を対象としたフォトコンテスト)」を実施しました。2024年12月14日(土)には中野キャンパスにて記念式典と懇談会が開催され、芸術学部1期生、退職教員、同窓会役員、大学理事長、大学専務理事、学長、学生代表、教職員など、約100人の参加があり、盛大に開催されました。



挨拶：吉野学長



挨拶：大島芸術
学部長



祝辞：安達同窓会長



企画紹介：浅野
教授



式典会場



企画紹介：上田教授



各学科代表学生によるプレゼン



特別講演：内藤名誉教授(同窓会副会長)

同窓会ホームページリニューアル

東京工芸大学同窓会ホームページがリニューアルし本年1月末に公開されました。1年以上にわたりサイトの目的やコンテンツ、デザインなどを一から見直し内藤副会長、進藤副会長を中心とした分科会にて活発な議論を何度も重ね今回のカタチとなりました。キービジュアルはイラストレーターとして活躍されているデザイン学科出身の同窓生、黒田愛里さん(88期)に依頼。コンテンツも様々なジャンルで活躍する同窓生や芸術学部学科ごとの研究

室などの取材を掲載、今後も芸術学部7学科、短期大学部、東京写真短期大学までを網羅する内容を企画し、どの世代の同窓生でも楽しめるようさらにコンテンツを充実させていきます。

さらに2026年我々の同窓会は100周年を迎えます。その周年事業としてさらにホームページを進化させます。新コンテンツだけでなく同窓生や在学生のコミュニケーションがどこからでも可能となるエア同窓会館(オンライン上のコミュニティスペース)を準備中です。テクノロジー

とアートに関わる卒業生を輩出する大学として同窓会もホームページも洗練して参りますので今後の活動にご注目ください。小宮 広嗣(73期)



新同窓会ホームページ
<https://kougei-dousoukai.jp>

2025フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割と国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年に設けられ、今回で46回目を迎えます。

本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。

また、同窓会から多大なるご支援をたまわり、本学100周年が目前となった第43回よりあらたに奨励賞を設けることができましたこと、ここにあらためて御礼申し上げます。

受賞作品は2月25日から3月22日まで写大ギャラリーで展示され、会期中の3月15日には表彰式と祝賀会がとりおこなわれました。

卒業生の皆さま、卒業後10年までという制限はありますが、ぜひ次回の「フォックス・タルボット賞」へのご応募をご検討ください。お待ちしております。本賞がこれまでも増して、本学を巣立ち、社会の荒波の中で創作を続ける卒業生の皆さまの励みになればと思います。

フォックス・タルボット賞運営委員長
教授 圓井 義典



集合写真



吉野学長



立木審査委員長
による総評



安達同窓会会長



賞状授与



第一席の岡崎 哲さん

写真提供：都筑写真事務所

2025フォックス・タルボット賞は、2025年1月27日に審査が行われ、下記の方々が受賞しました。

2025フォックス・タルボット賞 受賞者

第一席	新宿ポートレート	岡崎 哲	芸術学部写真学科4年
第二席	僕の前では絵を描かない。	岡田 望	芸術学部写真学科3年
第三席	蝶々結び	金子 香里	芸術学部写真学科4年
モノクロ賞	小惑星「ゼノプラズマ」	藤本 祐菜	芸術学部写真学科4年
奨励賞	旗、変われど	梁 永明	芸術学部写真学科4年
佳作	acasâ	石原 里亜 ジョアナ	芸術学部写真学科4年
佳作	Dream island	町田 海	芸術学部研究生
佳作	The Greatest Country	チョウ シホウ	芸術学部写真学科2年
佳作	Pain recollection	三根 海人	芸術学部写真学科4年
佳作	見えない都市	リュウ ヨトウ	芸術学部写真学科2年

審査委員の先生方 立木義浩(委員長) 中谷吉隆 小林紀晴 梁丞佑 本城直季 (敬称略)

※学年は受賞当時のものです。



2024年度 学位授与式

2025年3月20日(木・祝)文京シビックホール・大ホールにて2024年度芸術学部・大学院芸術学研究科の学位授与式が執り行われました。学部550名、大学院19名の計569名が本同窓会の仲間

に加わった瞬間にもなります。式には来賓として本同窓会の安達会長が出席し、祝辞を述べました。卒業生の皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。





2024年度 卒業祝賀会

学位授与式のあと、会場を池袋メトロポリタンホテル3階富士に移して、後援会・同窓会主催の「卒業祝賀会」が開催されました。後援会長、同窓会長の祝辞のあと、吉野学長の乾杯のご発声、そして4年間苦楽を共にした友人、恩師との楽しい歓談の時間を過ごしました。会の終盤には学科ごと

の記念撮影を行い、お開きの時間が過ぎても、名残惜しように話を続ける卒業生の姿が印象的でした。（上田 耕一郎 75期）





学位授与式・卒業祝賀会の写真提供：都筑写真事務所

|2025年度入学式

2025年4月3日、厚木市文化会館にて2025年度の入学式が挙行されました。芸術学部にて711名・芸術学研究科に24名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。来賓として本同窓会の内藤副会長が祝辞を述べました。



|令和6年度 後期定例理事会開催報告

令和6年度 同窓会後期定例理事会を、令和6年12月23日(月)17:00~18:15、東京工芸大学中野キャンパス2号館2階2203教室にて開催いたしました。構成理事31名のところ、22名(うち委任状0名)の出席により理事会開催が成立し、全ての議案に関してご承認頂きました。

議題

1. 令和6年度前期事業報告について(報告事項)
 - (1)事業委員会
 - (2)総務委員会
 - (3)広報委員会
 - (4)名簿委員会

2. 令和6年度中間収支報告について(報告事項)
 - (1)会計委員会
3. 令和6年度後期事業計画について(報告事項)
 - (1)事業委員会
 - (2)総務委員会
 - (3)広報委員会
 - (4)名簿委員会
4. 同窓会創立100周年記念事業について(報告事項)
5. 支部活性化について(報告事項)
6. 令和7・8年度役員改選について(報告事項)

|35期写真工業科製版技術専攻同期会

「動けるうちに集まろうぜ!」と、あと数年で米寿を迎える古き良き仲間が6人。昨年と同じ渋谷「パンダ」で2024年12月3日にランチ会を開催しました。喜寿を越えてから「量より質・少量多品種へ」と趣向が移り、飲茶スタイルで広東料理を味わい、WiFiギャギャと話し合いながら、

楽しく和やかに過ごしました。参加者：太田、澤田、塚本、角田、森川。
宮内 辰蔵(35期)



新潟県支部からのお知らせ

現在、新潟県にお住まいの卒業生の皆さんへ

今後、新潟県支部の集い・会合・懇親会等を活性化させたいと考えています。これらの会の案内がご希望の方は、FAXでお申し込み下さい。随時OKです。

下記、ご記入の上お申し込み下さい。

・卒業期 ・学科 ・氏名 ・住所 ・電話番号
新潟県支部長 小林 俊郎(44期)
FAX 0258-32-0974

展示会・出版の記録

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期
※学年、職位等は開催当時のものです



展：小島三幸写真展「時々刻々-台北-」
作：小島三幸(写真学科78期)
所：RED Photo Gallery
期：2024.11.4-2024.11.17



展：大村英明写真展「BANGLADESH DESTINATION」
作：大村英明(写真技術科52期)
所：CO-CO PHOTO SALON
期：2024.11.13-2024.11.21



展：ドローイング展「擬態する雑草」
作：遠藤拓人(大学院芸術学研究科80期)
所：ギャラリーハウス マヤ
期：2024.11.18-2024.11.27



展：金森玲奈企画チャリティー写真展「イヌネコLovers vol.8」
作：金森玲奈(写真学科78期)
所：Maison PHOTOGRAPHICA
期：2024.11.21-2024.12.1



展：甲田 智恵写真展「を、囁く」
作：甲田智恵(写真学科77期)
所：シェルブズコーヒー セルフスタンド店
期：2025.01.18-2025.01.19



展：写真専攻大学・専門学校選抜作品展 New Generation Photography 2025
作：山浦 靖太郎(写真学科3年)
所：ニコンプラザ東京THE GALLERY / ニコンプラザ大阪THE GALLERY
期：2025.2.12-2025.2.24
2025.3.6-2025.3.19



展：Ryo Ohwada 「FLORA/ECHO」
作：大和田良(大学院芸術学研究科79期)
所：Roll
期：2025.2.27-2025.3.22



展：飯島幸永作品展「消えた海 1973年~1976年」
一千葉県内房海岸・京葉臨海コンビナート開発 その光と影—
作：飯島幸永(写真技術科39期)
所：日本カメラ博物館
期：2025.3.4-2025.3.30



展：2025フォックス・タルボット賞受賞写真展
作：岡崎哲(写真学科4年)・岡田望(写真学科3年)・金子香里(写真学科4年)・藤本祐菜(写真学科4年)・梁永明(写真学科4年)・石原里亜ジョアナ(写真学科4年)・町田海(写真学科研究生)・チョウシホウ(写真学科2年)・三根海人(写真学科4年)・リュウヨトウ(写真学科2年)
所：東京工芸大学 写大ギャラリー
期：2025.2.25-2025.3.22



展：岡田望写真展「僕は鯨になった。」
作：岡田望(写真学科3年)
所：72Gallery
期：2025.3.5-2025.3.16



展：東京工芸大学芸術学部写真学科肖像写真研究室作品展2025
作：嶋津桜彩・関口実緒・西村春花・渡辺陸斗(写真学科4年)
所：ポートレートギャラリー
期：2025.3.6-2025.3.12



展：Each Perspective : STOCKHOLM - TOKYO
作：写真学科4年・石塚晃、佐藤風歌、高橋桃夏、茶木原朋音、森下葵衣、狹野祥英、島田颯之介、佐々木杏葉、町田海、高田 有輝(写真学科91期)
所：フジフィルム スクエア内、富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3
期：2025.3.6-2025.3.17



展：異界訪問譚 もうひとつの世界を見る作家たち 上田風子 上路市剛 草井裕子
作：上田風子(大学院芸術学研究科78期)
所：Gallery MUMON
期：2025.3.12-2025.3.29



展：亀岡倫太郎写真展「奥羽 1」
作：亀岡倫太郎(写真学科97期)
所：photographers' gallery
期：2025.3.25-2025.4.13



展：細江英公追悼写真展「写真への愛と尊敬」
作：細江英公(写真技術科29期)
所：東京工芸大学 写大ギャラリー
期：2025.4.7-2025.6.7



展：小林紀晴写真展「Cyber Modernity -Shanghai,Chongqing,Bangkok, Ho chi Minh-」
作：小林紀晴(写真技術科63期)
所：NikonSalon(ニコンプラザ東京内・新宿)
期：2025.4.22-2025.5.2



展：大橋史明 写真展「春風にのって、汽車は湿原をゆく」
作：大橋史明(写真学科93期)
所：キャノンギャラリー銀座
期：2025.5.20-2025.5.31
2025.7.1-2025.7.12



展：2025年日本写真協会賞受賞作品展
作：中谷吉隆(写真技術科32期)
所：富士フィルムフォトサロン東京 スペース1
期：2025.5.30~2025.6.5



展：小島三幸写真展「時々刻々-Roma-」
作：小島三幸(写真学科78期)
所：RED Photo Gallery
期：2025.5.26-2025.6.8

計 報

衷心よりお悔み申し上げます。

越 田 直 滋 (23期・写真技術科)

奥 住 光 太 郎 (24期・写真工業科)

角 田 久 (27期・写真技術科)

田 野 中 明 夫 (30期・写真技術科)

奈良岡茂登子 (30期・写真技術科)
(旧姓 依田)

岡 田 崇 (35期・写真技術科)

寺 岡 一 法 (35期・写真技術科)
(旧姓 吉田)

角 野 正 治 (37期・写真技術科)

齋 藤 徳 治 (39期・写真印刷科)

林 正 博 (43期・写真工業科)

尾 野 千 秋 (43期・写真技術科)

和 田 潤 司 (43期・写真工業科)

佐 藤 隆 一 (44期・写真技術科)

岡 村 安 廣 (47期・写真応用科)

水 谷 幸 伸 (51期・写真応用科)

(敬称略)

計報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会(規模の大小は問いません)など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

編集後記

いつもご愛読ありがとうございます。おかげさまで「ひろば」は、節目の150号を発行する運びとなりました。そして東京工芸大学同窓会は来年2026年に創立100周年を迎えます。同窓会では数年前から100周年記念事業のプロジェクトを立ち上げ、着々と準備を進めております。詳細はまだ確定していませんが、記念式典等のイベントで皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

広報委員 上田 耕一郎(75期)